

UML JIS化の経緯

2009年6月15日

UML JIS原案作成委員会 委員長 薮田 和夫

UML JIS化の背景

UML はなぜ？

- UMLはなぜ大学教育に使えなかったのか。
- UMLはなぜ情報処理試験に使えなかったのか。
- UMLはなぜ特許の文書に使えないのか。

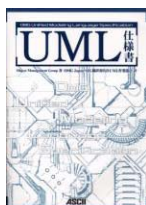
UML を後押しする活動は様々あるが・・・

【OMG 1989年設立】



OMG has been an international, open membership, not-for-profit computer industry consortium since 1989.
Any organization may join OMG and participate in our standards-setting process.

【相次ぐUML書籍の出版】



UML仕様書 (2001年11月発刊)

【UMTP/JAPAN 設立 (2003.5)】

UMTP/JAPAN 特定非営利活動法人UMLモデリング推進協議会

UML技術とモデル化技術の健全なる普及と発展を期して、2003年5月に設立される。

UML JIS化の主旨

UML (Unified Modeling Language) は、OMG (Object Management Group: オブジェクト技術標準化団体) が、オブジェクト指向分析・設計の表記法を統一モデリング言語として共通化してきたものである。

2005年4月、UML 1.4.2 が国際規格ISO/IEC 19501:2005として成立した。

日本では、UMLを広く公のモデリング言語として普及させる上で、そのJIS化が急がれていた。

2005年10月、JIS原案作成委員会がスタート。

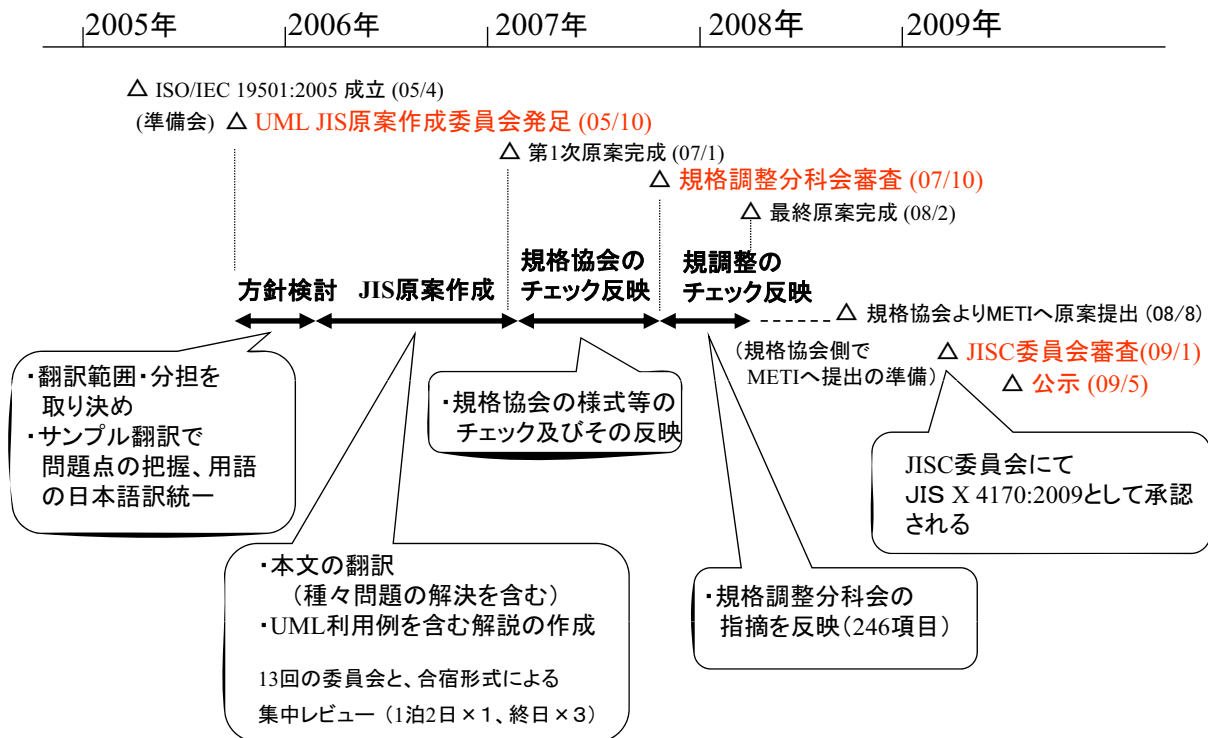
2009年5月、ISO/IEC 19501:2005の一致規格としてJIS X 4170:2009が制定される。

JIS X 4170:2009は、今後、公的試験(情報処理試験等)における利用、特許文書における利用、学校教育における利用など、様々な分野での利用が期待される。

UML JIS原案作成委員会 構成表

	氏 名	所 属
(委員長)	藪田 和 夫	富士通株式会社
(幹 事)	篠 博 康	富士通株式会社
(委 員)	今 城 哲 二	東京国際大学
	岸 上 信 彦	日本電気株式会社
	黒 川 利 明	株式会社CSKホールディングス
	小 林 秀 司	経済産業省産業技術環境局
	篠 木 裕 二	株式会社日立製作所
	関 達 雄	財団法人日本規格協会
	竹 政 昭 利	株式会社オージス総研
	羽生田 栄 一	株式会社豆蔵
	二 上 貴 夫	株式会社東陽テクニカ
	堀 内 一	東京国際大学
	宮 崎 比呂志	富士通株式会社
	山 城 明 宏	東芝ソリューション株式会社
	山 本 喜 一	慶応義塾大学
(事務局)	三 田 真 弓	社団法人情報処理学会

JIS成立までの作業経過



JIS原案作成 ー想定外の苦労ー

IS原文は規格部分と参考情報が混在！

規定部分が不明確である！

“and”などの接続詞が多様され修飾関係が複雑！

自然言語風のメタモデル要素名が読者を惑わせる？

OMGでの暗黙の了解事項が規格本文に反映されていない！

ISの巻末にあるGlossaryも規格に含めるべき？

本来、国際規格にはないはずの著作権等の記述がある！

本格的な普及を目指して

JIS

オープン分散処理－統一モデル化言語
(UML) 1.4.2 版

JIS X 4170 : 2009
(ISO/IEC 19501 : 2005)
(PS&JSA)

平成 21 年 5 月 29 日 制定
日本工業標準化委員会 審議
(日本規格協会 発行)

著作権 © 2009 日本工業標準化委員会。本標準は JIS X 4170:2009 である。

良い例をいっぱい書いて、...

見せてあげてください！！